

平成21年度

若手リーダー 組織を作ろう!

～若手リーダー組織設置推進委員会報告から～



全国老人クラブ連合会

Japan Federation of Senior Citizens' Clubs, Inc.

全老連では、若手リーダー組織の設置促進のため、先行して組織を設置している3か所の市町老連のリーダーにお集まりいただき、下記の委員会を開催いたしました。そして組織設立までの経過や現在の活動などについてご報告いただき、率直な意見交換を行いました。(概要は、本誌6ページから掲載)

若手高齢者世代がますます増加するこれからの時代にあって、若手高齢者も視野に入れたクラブづくりをしていくことは欠かせないことだと考えます。

多くの市区町村老連において、若手リーダー組織が設立されることを期待しています。

■ 若手リーダー組織設置推進委員会

日時:平成22年3月2日(火)11時~15時

会場:東京都 全社協第3会議室

委員名及び所属組織の概況



兵庫県

太子町^{たいしちょう}老人クラブ連合会

若手部長 **岡田 義憲**

太子町老連(45クラブ、会員4355人)

若手部長会/平成18年設立

部員(若手部長):原則75歳未満(当初は70歳未満)、
単位クラブから各1人
37人(男性35人、女性2人)



徳島県

鳴門市老人クラブ連合会

若手委員長 **小林 弘明**

鳴門市老連(62クラブ、会員3666人)

若手委員会/平成17年設立

委員:75歳未満の単位クラブ代表者
19人(男性6人、女性13人)



長崎県

大村市老人クラブ連合会

会長(前壮年部長) **島中 英安**

大村市老連(83クラブ、会員5139人)

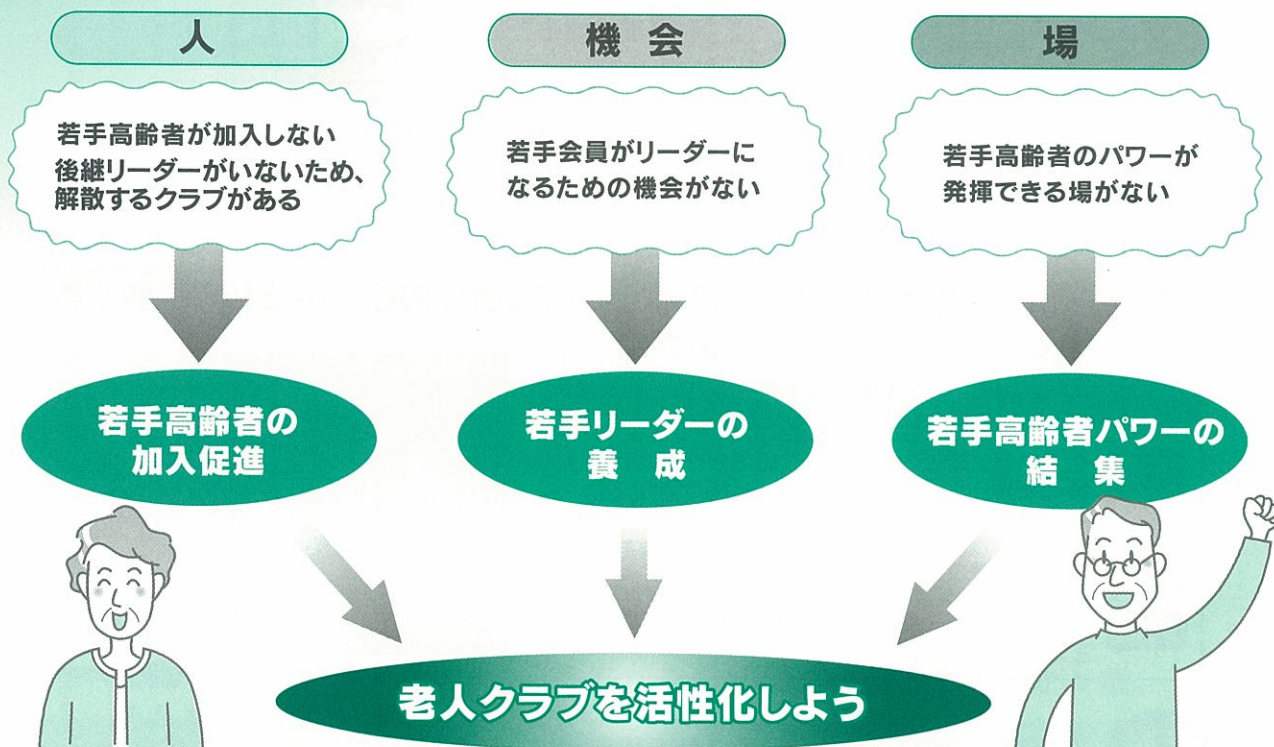
壮年部/平成17年設立

部員:75歳未満の単位クラブ会長
12人(全員男性。そのため協力者として女性の参加を得ている)

この委員会で、3人の貴重な体験や意見交換を通じて浮き彫りになった若手リーダー組織(以下、「若手委員会」という)の姿・方向性・課題の要点を以下にまとめました。

若手委員会はなぜ必要か

次のような老人クラブの現状と課題に対して、若手委員会がその解決に向けた動きとなることが期待されています。



若手委員会の設立まで

若手委員のイメージ

- 年齢は、75歳未満または60歳代。
- 男女が参加している。
- 地区老連や単位クラブからの推薦により、委員が選出されている。
ほかに協力者などのメンバーを募っている場合もある。

若手委員会設立の推進力になったこと

- 都道府県・指定都市老連や市区町村老連の「方針」として、若手委員会設立を掲げた。
- 市区町村老連会長に、若手委員会設立についての「熱意」があった。

若手委員会の活動

活動推進のポイント

- 若手委員自身が企画、実施すること
若手委員の個性、知識と経験を活かして、「その人の力をうまく引き出す」。
- なにかの「ためになる」活動であること

老人クラブ **組織** のため

若手 高齢者のため

地域 のため

以下に紹介する若手委員会の活動では、活動が老人クラブ組織のため、若手高齢者のため、そして地域のための活動にもなっていることがわかります。

活動例1

「今年がわが県で国体が開催される。国体の応援隊として活動することを、町老連に提案しよう」

(兵庫県太子町老連 若手部長会)

組織

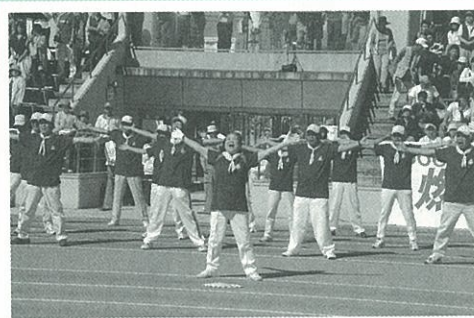
老人クラブ組織のPRになる。若手が呼びかけて会員に参加してもらうことにより、組織の活性化につながる。

若手

若手高齢者自身が輝ける。

地域

国体開催地域の活動として、地域を盛り上げることに繋がる。



活動例2

「介護予防リーダー講座には若手委員が参加している。それを活かして、市介護保険課と連携したウォークラリーや料理教室に取り組もう」

(徳島県鳴門市老連 若手委員会)

組織

新たな活動の展開は、組織の活性化につながる。

若手

活動により、若手高齢者の健康と生活を支える。

地域

市との連携により、地域住民も含めた活動に発展する。



活動例3

「自分が研修を受けた体力測定を、市老連で新たにに取り組むことになった。壮年部員に勉強してもらって、体力測定を担当しよう」

(長崎県大村市老連 壮年部)

組織

市老連の新たな活動を推進し、活性化につながる。

若手

若手高齢者の健康づくりに役に立つ。

地域

活動の結果、地域包括支援センターから共同開催が申し入れられ、地域の活動に発展する可能性がでてきた。



＼老連組織として、よかった!／

「若手委員会は頼りになる。ありがとう」

老連の行事や活動について、若手組織が手助けをして喜ばれている。

新しい活動に取り組み、活動メニューを増やすことができた

新しい活動を若手組織が実施することにより、老人クラブが活性化した。

老連組織に、若手高齢者の意見を反映することができた

若手委員会が老連組織に位置づけられたことにより、若手高齢者の提案や提言を反映することができる。

若手リーダーが育ってきた

若手の場ができて、研修会や単位クラブで話をする機会が与えられたことにより、リーダー育成につながった。

＼若手高齢者にとって、よかった!／

仲間が出来た

役割を受け持つことが、生きがいにつながっている

活動をとおして、自分も、周囲の方がたも満足感が得られてよかった。
そんな体験はなかなかできない

新たな自分を発見できて、自分自身の成長につながった

若手委員会の今後の課題

① 若手リーダーの養成をすすめる

- さまざまな研修会や交流会に、若手委員や若手高齢者が参加できる機会をつくる。
- 若手高齢者向けの研修会を、企画・開催する。
- 研修で学んだことを、若手委員や若手高齢者に伝える。

② 若手高齢者のためのクラブづくりを考える

- 若手高齢者が「参加したい」と思える活動や組織づくりを実践していく。
- これからの若手高齢者世代を視野に入れた組織づくりを考える。

③ 地域再生に向けて、若手高齢者世代から発信しよう

- 現在、地域の関係は薄くなってきているが、高齢期の生活では、地域における人と人の結びつきがより大切である。悪質商法などの防犯や防災をはじめ、高齢者の住みやすい地域づくりを、若手高齢者を中心として老人クラブから発信していこう。

若手リーダー組織設置推進委員会の概要

(誌面の都合上、抜粋して紹介しています。)

委員
兵庫県 太子町老人クラブ連合会 若手部長
徳島県 鳴門市老人クラブ連合会 若手委員長
長崎県 大村市老人クラブ連合会 会長(前壮年部長)

司会
全国老人クラブ連合会 常任理事・事務局長

岡田 義憲
小林 弘明
島中 英安
齊藤 秀樹



若手委員会の発足と出会い

- 司会** 始めに、みなさんが若手委員長になられた経緯を教えてください。
- 岡田** 太子町老連若手部長会は、全市町老連に若手組織を設置するという県老連の方針を受けて発足しました。町老連会長が熱心だったこともあり、全クラブから1名、70歳までの若手を推薦いただき、当初30名程が集まり、互選により私が代表を引き受けました。
- 小林** 鳴門市老連若手委員会は、会長の熱意とリーダーシップにより動かされ、会長自らが規約を作って立ち上げました。委員は単位クラブ会長の推薦で、私も卒業した県シルバー大学の卒業生が多く入っています。そして当時市老連代表理事のなかで一番若かった私が若手委員長になりました。
- 島中** 大村市老連壮年部は、県老連からの壮年部設置の呼びかけに応じて発足しました。75歳未満の単位クラブ会長を部員としたところ27名が集まり、私が初代部長となりました。現在は2代目の部長が頑張っています。
- 司会** みなさん若手委員会に参加した経緯はいろいろですが、共通していたのは、県老連や市老連の方針によって若手委員会が設立されたということですね。

若手委員会活動の広がり

- 司会** 若手委員会は発足してそれぞれ数年たっていますが、この間活動はどのように広がりましたか。
- 岡田** まず、その年地元で開催される国体競技での「応援隊」の企画を立て、町老連に提案しました。公募で30~40名が集まり、応援方法の指導を受けることから始めました。マスコミにも取り上げられて大成功を収め、現在も市体育祭などで継続しています。
- その後、「夢を語る会」として若手部長会の懇親の場をもったところ、いろいろな意見や活動のアイデアができました。みんな特別な技能があるわけでもなく、どうしてよいかわからなかったのですが、今では、パソコン講習会や健康ウォーキングをはじめ、町老連の会報発行も担当しています。
- 小林** 最初の頃は、市老連役員の中に「若手委員会は何をするんや」と言う人もおり、自分たちも「何をした

らいいんだろう」と思いながら、市老連の各専門委員会のお手伝いをしていました。

翌年から県老連で「介護予防リーダー養成講座」が開催され、毎年10名近くの若手委員が参加するようになりました。そこで学んだことを活かして、地域包括支援センターや市介護保険課とも協力して、介護予防を目的としたウォークラリーや体力向上教室、クッキング教室などを開催しています。

島中 まず手がけたのが体力測定です。県老連が取り上げたのを受け、市老連でも取り組むことになったのです。私は以前、全老連のシニア・スポーツリーダー研修会に参加していましたので、そのとき学んだことが力になりました。現在は壮年部員に加え、女性リーダーも一緒に測定の仕方を勉強しています。地域包括支援センターからは「来年は一緒にやりましょう」と声がかかっています。

若手委員会のもつ意味

司会 若手委員会は、若手高齢者にとって、また老連組織にとってどのような意味があったとお考えですか。

岡田 若手にとっては、現役の時に培った技能や知識を若手部長会という場を通じて発揮することができました。ボランティアを初めて経験し、「まわりも喜び、自分も満足感が得られてよかった。そんな体験はなかなかできない」と言っている部員もいます。新たな自分の発見もあり、成長につながったと思います。

組織にとっては、新しい活動が始まったことと、頼りになるグループができたことではないでしょうか。

小林 若手高齢者にとっては、みなに頼りにされていることで、「若手委員会ありがとう」と言われて喜んでいます。組織でもイベントがやりやすくなったと

評価され、市老連の役に立っていると思っています。中でも、高齢者美術展では展示一切を引き受け、廊下に暗幕を張ったり、作品の配列をしたり、大変気を使う作業をこなし、担当の文化委員長に褒めていただきました。

島中 若手高齢者は、一定の役割を与えてもらうことで生きがいをもって取り組むことができます。先日の単位クラブ研修では、壮年部長と副部長が発表しましたが、彼らはよく勉強し、理解しています。若い人には「自分から積極的にやってください。そうすれば市老連がサポートします」と言っています。その気持ちに通じたのか、若い人にみんなを引っ張っていく気持ちが育ってきたようです。

組織にとっては、厚みを増した活動が出来ることです。活動は、問題がないから継続するというのではマンネリ化します。新しい視点で問題意識をもって見直すことが必要です。また壮年部が位置づけされたことで、組織の中で提案、提言をすることができるようになりました。

司会 若手委員会は何をやるのかわからないまま、手探りでスタートしましたが、動いているうちに周囲に認知されて、評価されることにもなった。自分自身も新しいことを発見して、充実感が双方にあるようです。

若手高齢者世代に向けた取り組み

司会 これまでの話から、若手委員会は現在の組織を活性化する働きをしましたが、自分たち若手世代の楽しみは二の次になっている印象です。若手組織には、同世代やこれからの世代に見合った活動や参加の仕方を考えて欲しいと思いますが、どうでしょうか。

小林 若手世代に向けてのことは難しい問題ですが、一番肝心なことですね。

島中 若手の感覚で多様なニーズに対応し、活動メニューを増やしていくことです。地域の人が入りたいと思うクラブをつくることが

必要だと思います。

岡田 受け入れる気持ちが大切だと思います。例えばホームページ作成に興味を持っている人がいたら、老人クラブのホームページ作りに挑戦してもらい、その人の力をうまく引き出す。若い人なりのアイデアや意見を引き出し、前面に出してあげることが大切だと思っています。

司会 若い世代とともに何を実行していくかは、老人クラブだけでなく地域でも必要だと感じています。隣近所のつながりが昔ほど強くないですが、地域の人が力を合わせなくてはならない状況は、むしろ増えているように思います。地域のつながりをもう一度作り直していく、地域再生のパワーを若手世代に期待します。

若手委員会は必要か

司会 最後に、若手委員会は老人クラブにとって必要でしょうか。

島中 絶対必要だと思います。まず若手委員会を立ち上げて新しい活動に取り組むことが、加入促進にもつながります。

小林 なくてはいけないと痛切に感じています。地元でも若手委員会のないところはクラブが衰退するよと感じることがあります。若手委員会を作って後継者を育てていかなくはなりません。

岡田 若手には最初は入会を拒まれますが、目に見えるPRをして、「老人クラブはあなたを必要としている」というメッセージを発信していきたい。時間はかかるかもしれませんが、辛抱して見守っていただければ老連にとって必ず役にたつ組織となります。



若手リーダー組織を作ろう!

～若手リーダー組織設置推進委員会報告から～

平成22年3月

●発行 財団法人 全国老人クラブ連合会
〒100-8917 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3581-5658(代表)

●印刷所 (株)フロム・エー

000543001